TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル　イエス・キリストにある自由
ガラテヤ人への手紙 5:1-6

2023 年 3 月 25 日& 26 日
ジェシー・セザリオ牧師

今日参加されている皆さん、TBC ウェストトウキョウ、TBC 三郷、スヴァバプテスト教会、トンガバプテスト教会の皆さん、おはようございます。神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの恵みが、今日、皆さんと共にありますように。
お祈りします。

前置き
私は小学生の頃、放課後、よく児童館のゲームルームで長い時間遊んでいました。ロードアイランド州のプロビデンスに住む子どもたちは皆、そこへ行って遊んでいました。あらゆる遊び道具が揃っていました。ビリヤード、バンパープール(ミニビリヤード)、テーブルフットボール(フーズボール)、エアホッケーの他、体育館には他にブレイクダンスなどのアクティビティがありました。
ビデオゲームも揃っており、それに私は熱中していました。しかしそのゲームをするにはお金が必要でした。25 セントかかったのです。当時の私には結構なお金でした。時々、父が1ドルをくれましたが、それだけでは足りませんでした。5-10 分もすると、あっという間にそのお金も消えてしまうのでした。ゲームをしながら、私は頭の中でずっと、「死なずに次のレベルまでたどり着かなければならない。死んではダメ、死んではダメだ。」ところが、私はいつも死んでしまい、ゲームオーバーとなり、お金も無くなっていたのです。正直言って、その経験はゲームをする喜びを奪い取るほどでした。

そこへ、任天堂のゲームが現れました。皆さんは覚えていらっしゃらないかもしれませんが、当時のゲームは続けて何度もプレイできなかったのです。ゲームセンターのゲームを基に作られていて、勝つまでのチャンスは5回しかなかったのです。その結果、私たちは退屈なことに最初のレベルを何万回もプレイする羽目になったのです。チートコード(裏技)を知っていればいいのですが、ゲームが進むにつれ当たり外れがありました。無敵状態だとゲーム自体が面白くなくなるようなものです。
そこで、ゲーム開発者は「ゲームをセーブする」「続きをする」機能を搭載しました。途中で終わることなく、最後までゲームを終了させる機能を作ったのです。それによって、ゲームを終える喜びが経験できたのです。
間違ってもゲームを続行できるようになったので、やる気が増し、どんな場面もくまなくプレイするようになりました。たったの5回で死んでアウトとなっていたのに対して、プレイヤーは次第に腕を磨きどんどん上達していきました。よりパワーを発揮できる秘密のアイテムを発見するのも楽しみでした。ゲーム開発者がデザインしたゲームを目一杯、楽しむことができるようになったのです。
今日はこれを念頭に置きながら、メッセージを進めていきます。

ガラテヤの信徒への手紙 5:1-6
この自由を得させるために、キリストは私たちを解放してくださいました。ですから、しっかりと立って、二度と奴隷の軛につながれてはなりません。 よく聞きなさい。私パウロがあなたがたに告げます。もし割礼を受けるなら、キリストはあなたがたにとって何の役にも立たなくなります。 割礼を受けるすべての人に証言しますが、そのような人には律法全体を行う義務があります。
律法によって義とされようとするなら、あなたがたは、キリストとは無縁の者となり、恵みを失ってしまいます。 私たちは、霊により、信仰に基づいて義とされる希望を、心から待ち望んでいます。
キリスト・イエスにあっては、割礼の有無は問題ではなく、愛によって働く信仰こそが大事なのです。

1A. 固く立ちましょう、キリストが解放してくださった自由において。
聖書によって、この箇所の訳は異なりますが、キングズジェームスバージョン(KJV)でなければおそらく、「自由を得させるために、キリストは私たちを解放した」となっているでしょう。聖書の訳によって文の位置が前後しますが、意味はほぼ一緒です。例えば「私はボールを渡された」、と「ボールが私に渡された」のような違いです。ただ文の構造を変えるとニュアンスが違ってくるでしょう。
パウロがここで伝えようとしているニュアンスだけは理解して下さい。パウロは「自由・解放」ということを強調しているのです。パウロがガラテヤの信徒への手紙の中で伝えようとしていること、また、神様の御言葉が皆さんに伝えようとしていることは、この「自由」なのです。ガラテヤの信徒への手紙の 1-4 章までを締めくくる主題であり、人々に向けての命令であり、指令であり、裁きと非難を前にしたときの反逆の叫びでもあります。

ここにいらっしゃる皆さん、イエス・キリストはあなたを自由にしてくださるのです。そしてイエス・キリストが救い主なのです。あなたは、何から解放されて自由な身になったのでしょうか。それは、罪から、罪の奴隷から、呪いや死へ繋がる罪の律法からです。

ローマの信徒への手紙 8:1-2
従って、今や、キリスト・イエスにある者は罪に定められることはありません。 キリスト・イエスにある命の霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

イエス・キリストを信じている人は、いかなる律法からも、永遠の命を奪い取られることはありません。あなたは永遠の命を得ているのです、もうあなたのものなのです。罪から解放され自由の身となり、神様の子どもとなったのです。

ヨハネによる福音書　8:34-36
イエスはお答えになった。「よくよく言っておく。罪を犯す者は誰でも罪の奴隷である。 奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。 だから、もし子があなたがたを自由にすれば、あなたがたは本当に自由になる。

あなたは罪を犯した結果もたらされる罰、罪悪感からも解放されるのです。神様の子ですから恥じる必要はありません。

コリントの信徒への手紙一 6:11
あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名と私たちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされたのです。

私たちは「自由」のなかで「ぐらつかず固く立つ」必要があるのです。逆説的ですよね！この二つは真逆な概念が一つにされています。動かないと同時に自由でいる、とはどういうことなのでしょう。
自由の中に立つ、それは自由の中に身を置くことです。ここに出てくるガラテヤの信徒たちは、かつてイエス・キリストにあって自由を経験し信仰を持ったにも関わらず、100%失われたわけで

はないものの、その教えが少しずつ消えて始めていました。文脈からも感じられるように、パウロはある意味、彼らの流動的な信仰を表現しています。どうしたら、彼らが本当に救われたかがわかるのでしょうか。初めから信仰がなかったのでしょうか。パウロは彼らに信仰が初めからなかったと考えていませんでした。パウロのゴールは、彼らを勇気づけて真の福音を信じ、信仰へとつなげることだったのです。
信仰を持つこと、信仰を持ち続けること、イエス・キリストにある自由を決して忘れないことは、しっかりと信仰に立ち、そのような信仰の中で動くということなのです。

パウロはコリント信徒への手紙一 16:13 で、同じような表現で、固く信仰に立つように言っています。
あなたはイエス・キリストを通して得られる「自由」の中で立っていますか。そのキリストの「自由」の中にあって、温かくいい気持ちで過ごしていますか。
イエス・キリストを信じて自由を手に入れたにも関わらず、未だ牢獄にいる人もいます。神様がどう思うかではなく、人の視線ばかりを気にして生きているからです。信仰にあるならば、私たちは皆、神様の子どもなのです。

放蕩息子が家に戻って来た時、父親はその息子の帰りを盛大に祝いました。畑で一生懸命に働いた兄が帰宅し、父親に弟がいかにひどいことをしていたかを説いても、父親は宴会を中断しませんでした。弟は新しい服に着替えても、ひどい匂いが漂っていたに違いありません。それでも父親は喜び祝ったのです。最終的な清めはその後にあったでしょう。
放蕩息子の兄の下した判断は、自分が誰の子どもであるかとは何の関係もないものでした。そこには、罪の意識、罪悪感、恥の意識はなかったのです。

誰が神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。(ローマ 8:33)

1B. 二度と奴隷の軛につながれてはなりません。
「entangle＝つながれる」という言葉に注目してください。
「しっかりと立つ」と似た意味を持ち重要なキーワードです。この言葉も、「動けない」というニュアンスが含まれています。しかしこれは自由に繋がれるものではなく、奴隷の軛に繋がるのです。奴隷の軛とは何でしょうか？パウロはこれを、罪を犯さないで済むために守るべき律法だと説いています。

ヤコブの手紙 2:9-10 ではこのように書かれています。
しかし、人を分け隔てするなら、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違反者と定められます。律法全体を守ったとしても、一つでも過ちを犯すなら、すべてにおいて有罪となるからです。

使徒達の律法理解は、律法の持つ儀式的側面と道徳的な側面を両方含んでいます。律法のいかなる部分を破っても、律法全体を破ったとして罪になるのです。イエス・キリストは真の意味の律法を私たちに教えています。心の中で生まれるいかなる邪悪な思いも、律法を破ることに等しいのだと言っています。人は完璧に行うことなどできないのです。この人おかしな人だな、思った瞬間、アウト、ゲームオーバーなのです。

人は皆、罪の奴隷として生まれ、奴隷の軛につながれているのです。パウロはローマの信徒への手紙 7:1 でこのように言っています。
それとも、きょうだいたち、私は律法を知っている人々に話しているのですが、律法とは、人を生きている間だけ支配するものであることを知らないのですか。
イエス・キリストもマタイによる福音書 11 章の中で、同じことを言っています。人は皆、奴隷の軛のもとに生まれ、罪を犯し、律法を破るたびに呪いや永遠の審判が下されるのだ、と説いておられます。

人生においてこのような経験がおありでしょうか。何かを達成させようと頑張っても期待外れに終わり、生きる上での困難に直面する、あるいは、達成させるための唯一の手段が、より罪を犯すことであること。このことが、あなたが陥る罪の軛なのです。
一体どうしたらこの奴隷の軛を解き放すことができるのでしょうか。

イエス・キリストはマタイによる福音書 11:28-30 でこのように言っています。

マタイによる福音書 11:28-30
すべて重荷を負って苦労している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。 私は柔和で心のへりくだった者だから、私の軛を負い、私に学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に安らぎが得られる。 私の軛は負いやすく、私の荷は軽いからである。

イエス・キリストはこの奴隷的束縛から逃れる脱出方法を私たちに与えてくださいました。イエス自身が罪のない人生を送りながらも十字架上で苦しみ亡くなることによって、人と同じように亡くなることによって与えてくださったのです。
脱出方法は、それまでの既存のシステムに割り込み、元々あったルールを利用するのです。神様が人類の罪を見て、それを掛け算して、全ての支払いを考え出したようなものです。
イエス・キリストは人としてこの世に生まれ、罪のない人生を送ったのです。イエスはゼロだったのです。ゼロに何をかけてもゼロになるのです。
イエス・キリストは私たちを罪の重荷から解放してくださる「脱出方法」なのです。イエスは「私の軛は負いやすく、私の荷は軽い」と語ると、弟子たちと畑に出かけます。安息日に畑に出て穀物を拾い食べたのです。これは律法に反する行いで罪とされていました。イエスは律法を侵すことになると理解していましたが、有罪ではないと言っています。なぜならば、彼らは神様の子どもであり、律法を上回るからです。イエスがマタイ 12:12 で言われるように、安息日に神の愛をもって善い行いをすることは正しいことだからです。

その後イエスは、ファリサイ人の目の前で、律法やユダヤの慣習を無視して安息日に手の不自由な人を癒します。それを見たファリサイ人は、律法破りという名目でイエスを殺そうとします。
イエスがその後何をしたかご存じですか？それにも関わらず、謙虚な我らが主イエスはますます多くの人々を癒していきました。必要としている人々に愛を施し、伝道することは、律法破りでもなんでもなく、まさに正しい行いなのだと知っているからです。

このような束縛があなたの信仰を難破させ、人々を啓発し教会を立て上げること、また、自分自身を啓発することを困難な状況にしてしまいます。あなたは、このような束縛に陥ってしまっていませんか。愛ある信仰の働きを妨げるような律法や慣習がありませんか。フェローシップ、伝動活動、お互いを愛し、信仰を強くし、神様を讃えることを妨げるような律法や慣習がありませんか。
誰もがイエス・キリストにあれば、律法による糾弾などありえません。なぜそう言いきれるのでしょう。それは「兄弟を自分のことのように愛せよ」という、律法の中で最も重要な律法に記されているからです。私たちは愛に満ちたこの黄金の律法を、聖書の中の他の何よりも最優先しなければなりません。兄弟姉妹を愛することは律法の根幹であり、新しい戒めなのです。

神の御子イエス・キリストの名を信じ、この方が私たちに命じられたように、互いに愛し合うこと、これが神の戒めです。（ヨハネの手紙一　3:23）

これが神の御心です。繋がれないでください！そのためには、イエス・キリストを救い主として受け入れることによって得られる「自由」の中にしっかりと身を置き、イエスが私たちを愛してくださったように、私たちもお互いを愛する必要があるのです。御言葉はその「自由」の中から出ていかないようにと、真の福音で語られています。律法に繋がれていると感じたならば、一歩下がって、イエス・キリストのみにある「自由」を振り返り、愛を持って兄弟に接する必要があるのです。

ガラテヤの信徒への手紙 5:2-3
よく聞きなさい。私パウロがあなたがたに告げます。もし割礼を受けるなら、キリストはあなたがたにとって何の役にも立たなくなります。割礼を受けるすべての人に証言しますが、そのような人には律法全体を行う義務があります。

2 節と 3 節には 2 つの異なる条件につながる 1 つの条件が出てきます。「私パウロが」から始まって、パウロのユダヤ人としてのルーツ、また使徒としての権威のどちらからも、割礼の結果について下記のように述べています。
1. キリストが何の益ももたらさなくなる
2. 律法全部を守るための負債者となる

ここで皆さん、考えてみて下さい。割礼自体が問題なのでしょうか。割礼は国によっては、医学的な観点からみた慣習だったといえます。ということは、割礼を受けた人々は皆、さきほど挙げた 2 つの結果と結びつくのでしょうか。

パウロは、ガラテヤの信徒への手紙 2:3 ではテトスに割礼を強いておらず、使徒言行録 16:3 ではテモテに割礼を受けさせたことが記されています。テモテがパウロと共にユダヤの慣習が強く残っている地域の人々に伝道するに当たり、割礼を受けさせたのです。ということは、パウロも割礼を受けているのです。にもかかわらずパウロはなぜ割礼に対して大きな問題意識を持っているのでしょうか。テモテにも割礼を受けさせ、またパウロも割礼をしているのに？

ガラテヤ人の手紙の4章を思い出してください。そこには2つの契約がありました。一方は肉によるもの、律法のための割礼があり、それはアブラハムを世襲の始まりとするものでした。しかしもう一方はイエス・キリストによる新しい方法、神への信仰の源とするもので、アブラハムも同じく持っていました。
しかしパウロはこの律法を完全に守ることなど誰にもできないことは承知でした。それは不可能な方法なのです。
律法によっては、誰も神の前で義とされないことは明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。（ガラテヤの信徒への手紙　3:11）

パウロはその行為そのものを語っているのではなく、むしろパウロは彼らの忠実さを語っているのです。2-3 節にある、会計用語である 2 つの対極にあるものに注目してください。利益と負債です。キリストの恵みである利益、あるいはその反対である律法に固執することで、人は常に負債を抱え、決して追いつくことはできません。律法は一つであり、神も唯一であり、神は愛なのです。律法は完全なる神の基準を表すものなのです。唯一、それを維持できるのがイエス・キリストなのです。ほかの誰も律法全体を守ることはできないのです。

救いを宗教的な努力によって手に入れようとする人がいます。それは律法主義的で何の役にもたたないのです。愛であり、永遠の命を与えてくださる神様の目からすれば、人の行いは不完全なのです。人生のすべての瞬間をお互いに対する愛で満たすことなど、人にはできないのですから。寝つきが悪かった日の翌日やおなかが空いたとき、もしくは誰かにコーヒーをこぼされたときにでも試してみてください。もしくはその 3 つが同時に起きたときに。

パウロが言っていることは、出来事の連鎖です。律法的に生きることは、割礼に始まり、肉体や自分の努力よって生きることであり、不可能なことなのだと言っています。それは、十字架、信仰、救済、聖霊、人道に相反することだとしています。律法に生きることは最悪なのです。

ガラテヤの信徒への手紙 5:4
律法によって義とされようとするなら、あなたがたは、キリストとは無縁の者となり、恵みを失ってしまいます。

ここでまた 1 つの条件により 2 つの異なる結果があります。不可能な試みである、律法によって義とされようとする人にもたらされる結果です。
1. キリストとは無縁の者となり
2. 恵みを失ってしまう

ギリシャ語の語源をたどると、「無縁の者となる」には「切り落とされ、動かなくなる」という意味があります。割礼を施した後の包皮のように、もはや機能しない役に立たないものとなってしまうのです。存在はしても、何の役にも立たないのです。

また、恵みを失うとはどういうことなのでしょうか。聖書で論争になる箇所です。なぜなら、恵みを持っている人が救われた人であり、恵みを失った人は救われない人となる、という風に聞こえるからです。でもそれはありえません。救いが失われることはないからです。

私の羊は私の声を聞き分ける。私は彼らを知っており、彼らは私に従う。私は彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、また、彼らを私の手から奪う者はいない。私に彼らを与えてくださった父は、すべてのものより偉大であり、誰も彼らを父の手から奪うことはできない。（ヨハネによる福音書 10:27-29）

パウロは、「恵みを失ってしまう」とは救いを失うことだと言っているはずがありません。おそらく律法の束縛に戻ってしまうことを示唆しているのでしょう。牢獄に収監されていた人が、解放され自由の身となった後も、また自ら牢獄に戻り律法に従おうとしているかのようです。（トニー・エバンズの記述を引用）

ここで問題なのは、収監される牢獄のドアにロックがかからないため、いつでも出入りが可能なことです。牢獄に入っているようで、実際は囚人仲間の目を気にしているだけなのです。律法に従い自ら牢獄に入っている間に、イエス・キリストに従って生きていたら得られるはずの自由は失われ、意味を持たないものとなってしまうのです。

4 節の「無縁の者となる＝ekpipto」とはギリシャ語で「落ちて非効率になる」という意味で、無駄な恵みや無駄な益を指しているように思えます。
あなたはイエス・キリストを信じていますか。イエスがあなたを牢獄から解放して自由を与えてくださったにも関わらず、未だ牢獄に縛られていませんか。イエス・キリストは立ち上がって自由の身をまといなさい！と言っているのです。

ガラテヤの信徒への手紙 5:5-6
私たちは、霊により、信仰に基づいて義とされる希望を、心から待ち望んでいます。6 キリスト・イエスにあっては、割礼の有無は問題ではなく、愛によって働く信仰こそが大事なのです。

パウロはここで、割礼や律法の行いによって義とされることに対して、信仰によって聖霊が働くことで義とされることを取り上げています。割礼を受けることが非常に悪いことというわけではありませんが、受けていようが、受けないでいようと、それは救いとは関係がないことを示しています。この世での行いは救いとは何の関係もないと言っているのです。何をするから救われる、何をしないから救われない訳ではないのです。

あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるのではありません。それは、誰も誇ることがないためです。（エフェソの信徒への手紙 2:8-9）

私たちはイエス・キリストにあっても100%、完璧にはなり得ません。父親の元に戻ってきた放蕩息子が、いくら新しい衣類や履物に身をまとったとしても、お風呂に入っていない為、臭い匂いが消えないのと同じです。パウロは私たちがまだ100%、義とされていなくても、将来、神様の恵みによって義とされる日が来ることを示唆しています。何も私たちの救いを取り去ることはできないのです。

神様の力によって訪れる、正義や完全に対する将来の希望はあるのです。だから心配する必要はありません。しかしパウロはこれからするべき事柄についても語っています。

私たちは神の作品であって、神が前もって準備してくださった善い行いのために、キリスト・イエスにあって造られたからです。それは、私たちが善い行いをして歩むためです。（エフェソの信徒への手紙 2:10）

混乱しがちですよね。しなくてもいいのか？するべきなのか？
間違いを犯してゲームオーバーになることはないけれど、まだやるべきことがある、とは一体どういう意味なのでしょうか。
間違いを犯しながら仕事をしたとしても、将来の報いはあるのです。必ずプラスに働き、決してマイナスにはならないのです。だから、愛を持って行う働きだけが何にも増して有効だと言えるのです。

神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者のためには、万事が共に働いて益となるということを、私たちは知っています。（ローマの信徒への手紙 8:28）

だから私たちは、神様がしてくださることに喜びを見出すことができるのです。私たちをあらゆる束縛から自由にしてくださり、私たちは自分のためではなく、神様の栄光のために生きていけるのです。
ミニストリーの生活を律法中心にしてしまうと、再び収監されたかのように、絶えずメリット、デメリット、損得を考える生活に戻ってしまいます。イエス・キリストの働きを取り去らないでください。全ての栄光はイエス・キリストにあるのです。イエス・キリストは十字架上で私たちの罪のために死んでくださり、私たちを罪の束縛から解放して自由にしてくださったのですから、クリスチャンとしてその自由を全うしてください。

神様が最初に私たちを愛してくださったから、私たちはお互いを愛することができるのです。
束縛から解放された自由が欲しければ、この真実を受け入れてください。イエス・キリストには全く罪がなかったにも関わらず、十字架上で苦しみ、亡くなり、埋葬された後、3日後に復活されたのです。すべてはあなたのために。十字架上で死んでくださったお陰で、私たちの罪と負債は支払われたのです。あなたを罪から解放し自由にするため、イエスは死んでくださったのです。罪から解放されて自由になりたいと思っているのならば、イエス・キリストの福音について信じてください。

祈りましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1323jp

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
4 月 15 日（土）13:30〜17:30
参加条件: クラス 101 を修了した TBC メンバー

★クラス 301
賜物発見クラス
5 月 13 日（土）13:30〜17:30
参加条件: クラス 101/201 を修了していること

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu